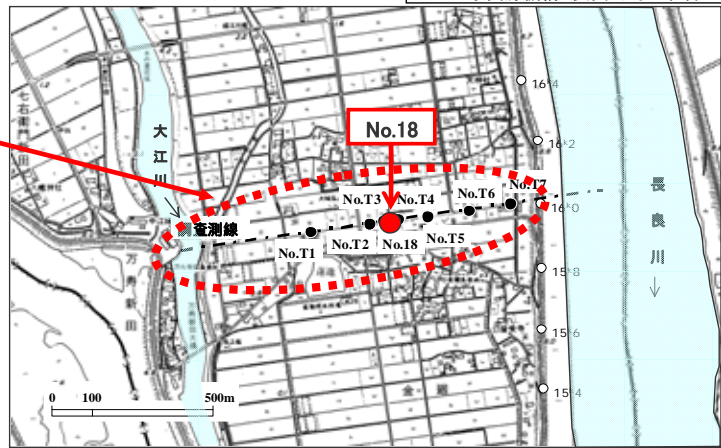
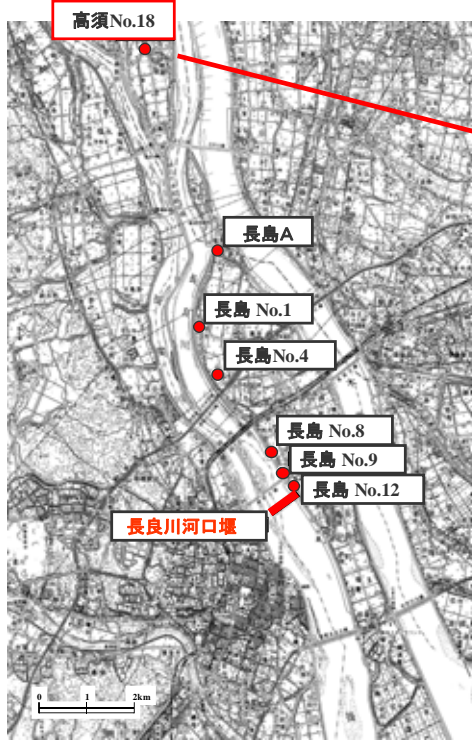


# 浅層地下水塩化物イオン濃度 調査概要

事業者資料-3  
 平成24年11月15日  
 平成24年度 長良川河口堰県民調査団  
 現地視察(高須輪中)説明資料  
 水資源機構 長良川河口堰管理所

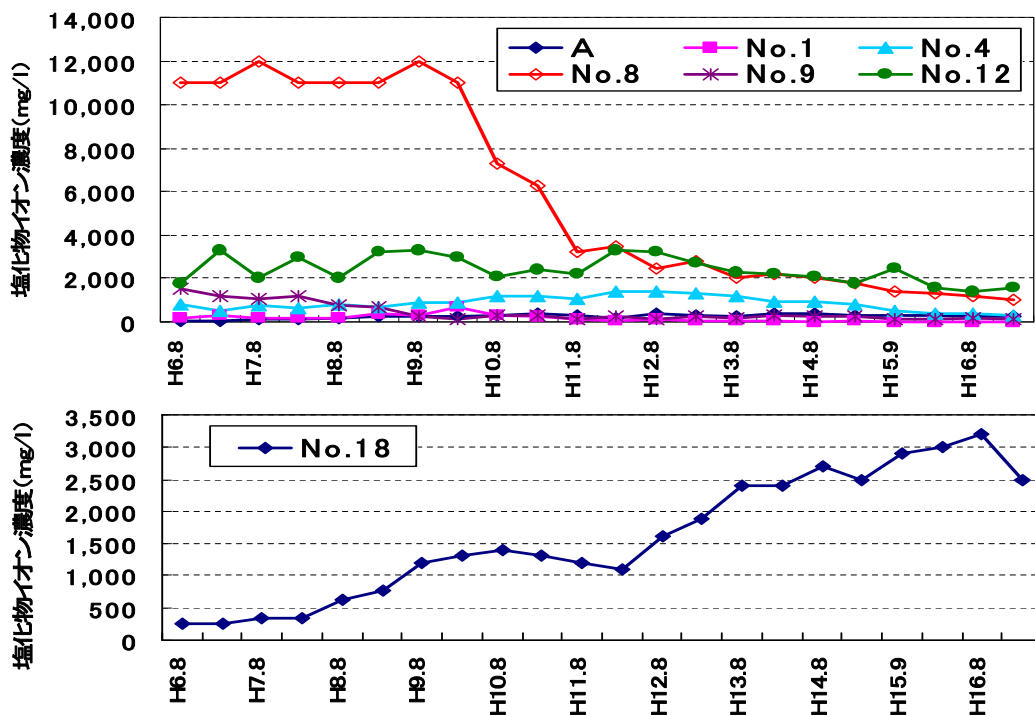


高須輪中(長良川右岸16km付近)

## ●浅層地下水塩化物イオン濃度調査経緯

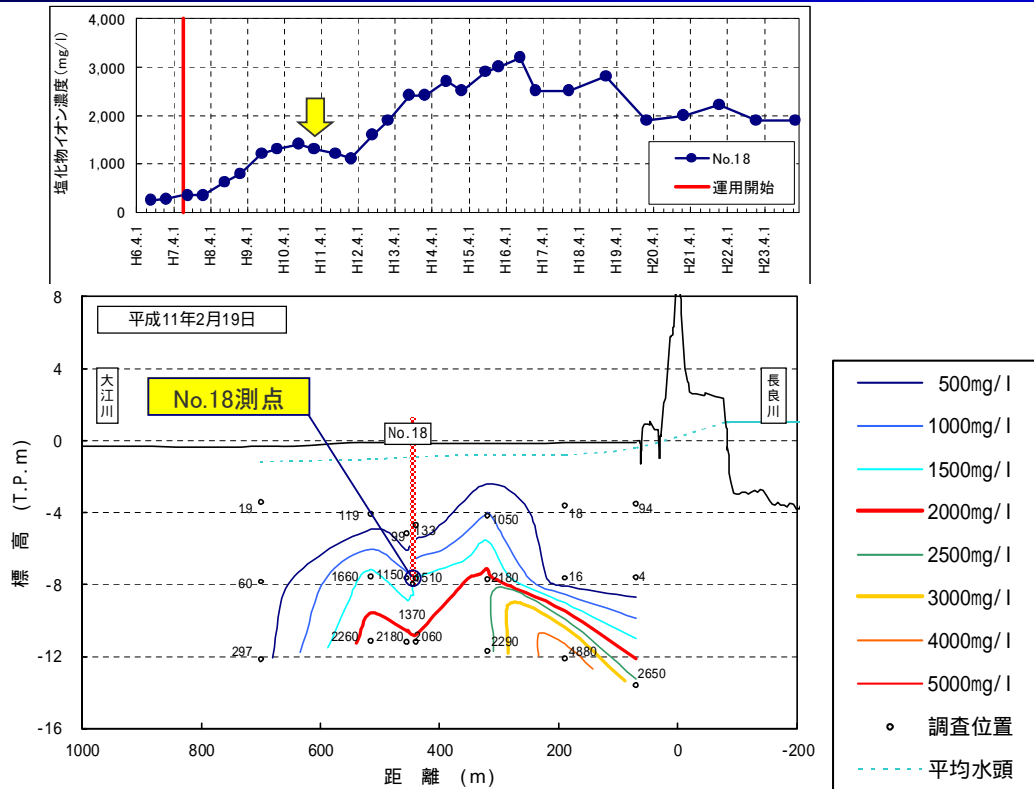
- ・河口堰の運用により堰上流側が淡水域となるため、河川と密接に関係する輪中内浅層地下水の塩分の状況を把握することを目的として、平成6年から調査開始。(長島輪中 6地点、高須輪中 1地点)
  - ・河口堰の供用により、長島輪中内においては表層地下水の塩化物イオン濃度は減少。(長島輪中:平成16年調査終了)
  - ・高須輪中「No.18」地点だけは、平成16年まで塩化物イオン濃度の上昇が見られたため、継続的な減少傾向が確認されるまで、塩化物イオン濃度の調査を引き続き実施している。
- ※平成11年より「No.18」を中心とする測線での観測開始。

# 浅層地下水の塩化物イオン濃度の経年変化

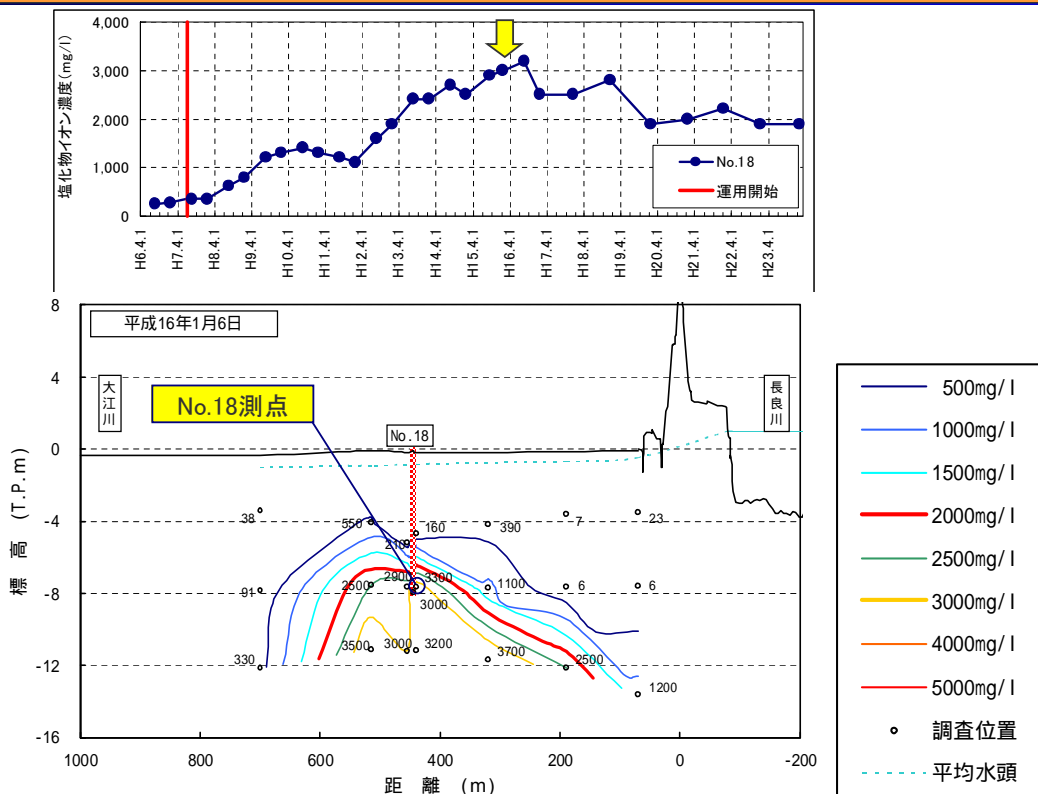


浅層地下水の塩化物イオン濃度の経年変化(H16年度まで)

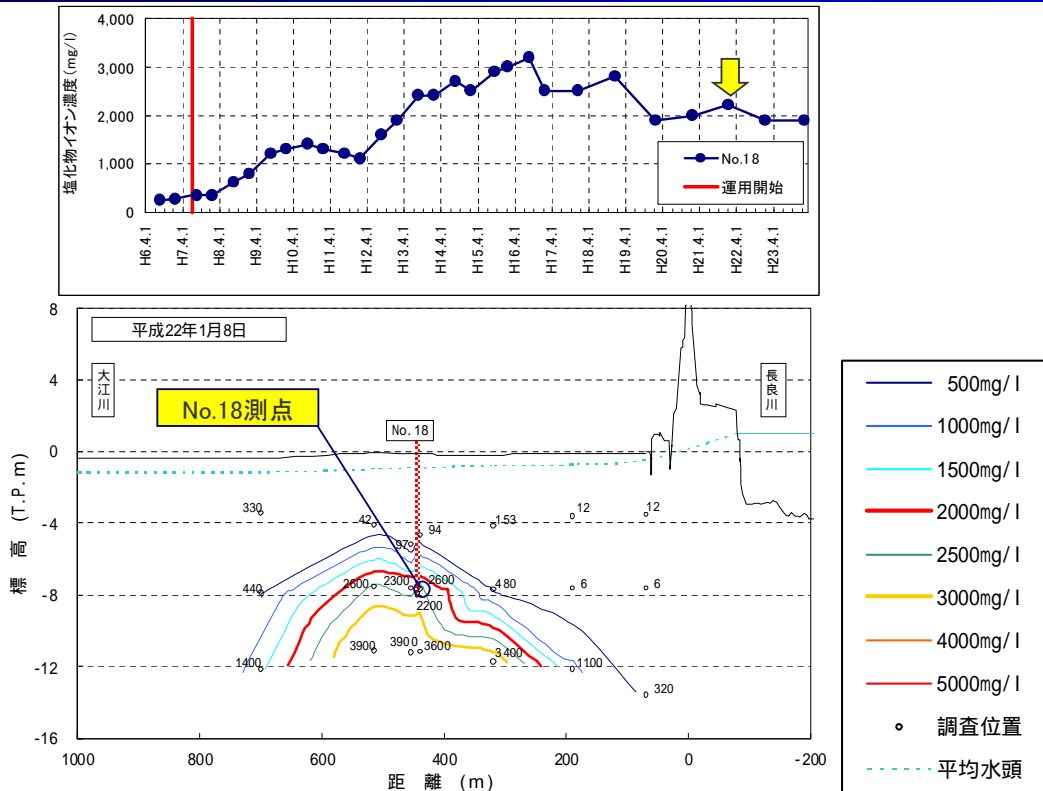
# 浅層地下水の塩化物イオン濃度継続調査 (横断方向分布図)



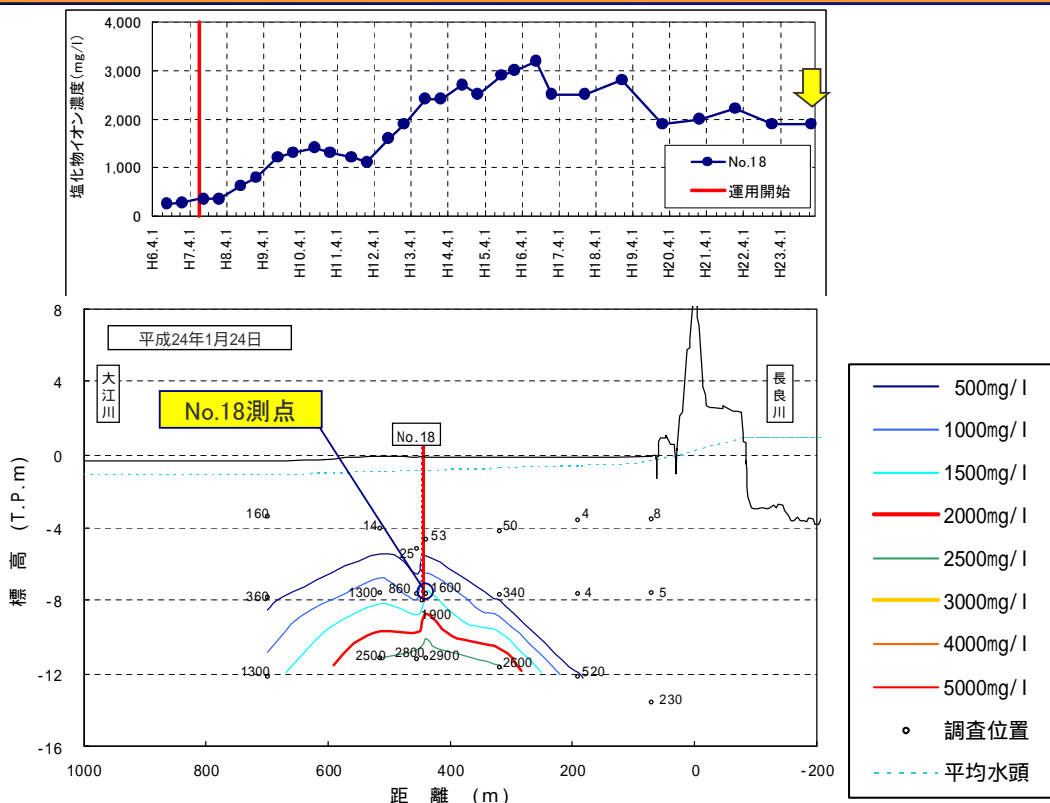
# 浅層地下水の塩化物イオン濃度継続調査 (横断方向分布図)



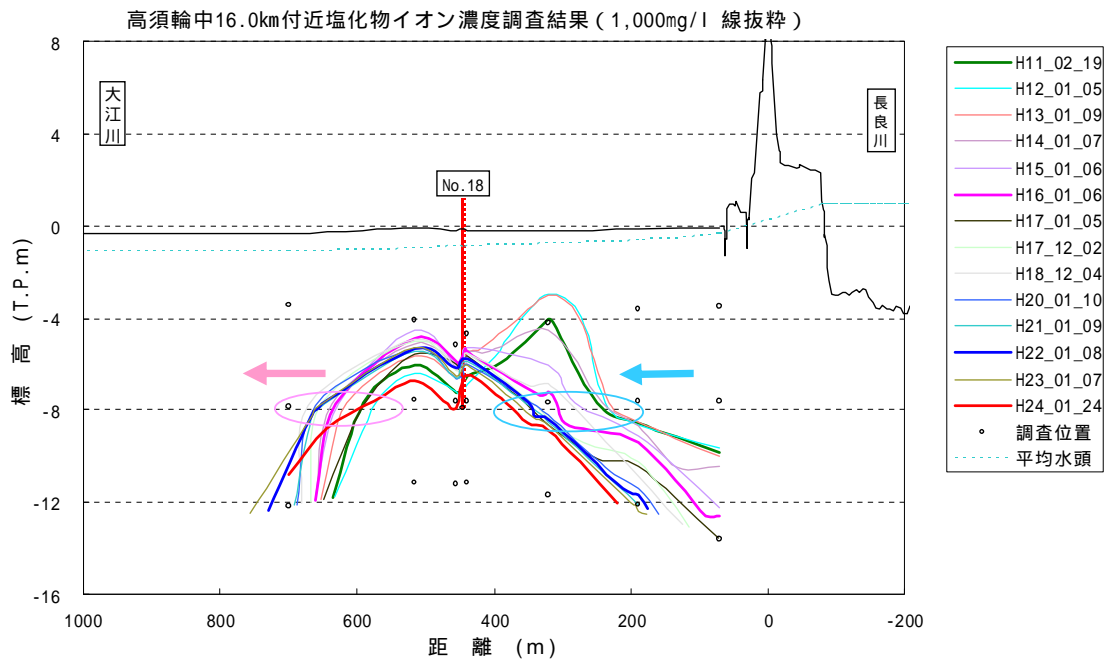
# 浅層地下水の塩化物イオン濃度継続調査 (横断方向分布図)



# 浅層地下水の塩化物イオン濃度継続調査 (横断方向分布図)



# 浅層地下水の塩化物イオン濃度継続調査 (横断方向分布図)



高塩化物イオン濃度の領域は大江川方向へ移動

## 塩害の防止に関する検証結果及び評価

### ○ 中部地方ダム等管理フォローアップ委員会(堰部会) 平成16年度 定期報告

項目	検証結果	評価
塩化物イオン濃度の経年変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長島輪中内の表層地下水の塩化物イオン濃度の減少傾向は、河口堰の供用による堰上流の淡水化に起因するものであると考えられる。</li> <li>・高須輪中内のNo.18の表層地下水の塩化物イオン濃度の増加傾向から、地下水の流動によって、高塩化物イオン濃度の領域が長良川から大江川方向へ移動していることが考えられ、これは河口堰の供用により水位をT.P.+0.8m～T.P.1.3mに管理していることに起因するものであると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河口堰の供用により長島輪中内においては表層地下水の塩化物イオン濃度が減少した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高須輪中No.18付近の表層地下水の塩化物イオン濃度が継続的な減少傾向を示すまで引き続き調査を実施する。</li> </ul>	

### ○ 平成22年度 第1回 中部地方ダム等管理フォローアップ委員会 長良川河口堰定期報告

項目	検証結果	評価
塩害の防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・No.18付近の表層地下水の塩化物イオン濃度は、高塩化物イオン濃度領域の移動に伴い、平成16年度を境に減少又は横這い傾向に転じている。</li> <li>・地下水は長良川から大江川方向に流動していると考えられ、高塩化物イオン濃度の領域も大江川方向へ移動している。</li> <li>・高塩化物イオン濃度領域の移動は、近年は遅くなっているが、全体としての安定には時間を要すると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地下水の塩化物イオン濃度は、高塩分濃度領域の移動に伴い、平成16年以降低下傾向にあるが、高塩化物イオン濃度の領域の移動状況について、引き続き監視の継続が必要である。</li> </ul>